渡来文化大賞に大日方さん

日本高麗浪漫学会 日高で授賞式　奨励賞は植田さん

古代の渡来文化の優れた研究書などを対象とした2022年度の「日本高麗浪漫学会　高麗澄雄記念渡来文化大賞」の授賞式が20日、日高市新堀の高麗神社で行われ、渡来文化研究大賞に島根大名誉教授の大日方（おびな）克己さん(65)の「古代山陰と東アジア」（同成社）が選ばれた。同奨励賞には早大文学学術院講師の植田喜兵成智（うえだ・きへいなりちか）さん(36)の「新羅・唐関係と百済・高句麗遺民　古代東アジア国際関係の変化と再編」（山川出版社）が決まった。2022年度からは同啓蒙賞が新設され、和光市教委の鈴木一郎さん(61)と大東文化大教授の宮瀧交二さん(61)監修の「武蔵国・新羅郡の時代　朝霞市・志木市・新座市・和光市の古代遺跡をめぐる」（雄山閣）が初めて選ばれた。（中嶋基人）

渡来文化大賞は過去3年間に国内外で発表された学術書や図録などを対象に選ばれ、22年度で5回目。古代の渡来文化研究に限定した賞は国内で唯一で、大賞には30万円が、奨励賞と啓蒙賞には各10万円が贈られる。

今回はノミネートされた9本について、国学院大の鈴木靖民名誉教授ら選考委員5人が審議した。

大賞の大日方さんは埼玉大卒。1997年から島根大で助教授、教授を務め今年3月、定年退職した。受賞作では9世紀前後の出雲国に来航した渤海（ぼっかい）国使節を中心に、出雲や平安京の文人貴族、僧侶の関係などを体系的に論じた。大日方さんは受賞について「大学の授業で取り上げた内容を元にしたもので、26年間のご褒美のような感じで頂けたように思う」と述べた。

奨励賞の植田さんは朝鮮古代史を専門とする。著作では7世紀後半～8世紀前半の新羅と唐や、百済と高句麗遺民の関係を論じ、古代東アジアの国際関係の変化と再編を解明している。

啓蒙賞の鈴木さんは和光市域の遺跡発掘などに携わり、宮瀧さんは県立博物館に勤務した経験を持つ。両氏が監修した受賞作では、和光など4市の文化財担当者によるシンポジウムの記録を基に、8世紀に移住した新羅人がつくった武蔵国新羅郡にアプローチした。

日本高麗浪漫学会長の須田勉さんは、授賞式で「渡来文化大賞は大きく成長してきた。長く続けて歴史と伝統を持つ賞に育てていくことが大切だ」と呼びかけた。

同学会は高句麗の渡来人が716年、現在の日高市周辺に建郡した高麗郡や渡来文化の歴史を多角的に研究し、埋もれている魅力やロマンを明らかにするために活動している団体。2016年の建郡1300年を祝ったために設立され、現在も活動を続けている「高麗1300」（大野松茂会長）の研究部門という位置付けになる。

渡来文化大賞の賞状を手にする大日方克己さん（中央）、奨励賞の植田喜兵成智さん（左隣）。啓蒙賞の宮瀧交二さん（左端）と同、鈴木一郎さん（右端）。右から2人目は高麗1300の大野松茂会長＝20日、日高市新堀の高麗神社

慈しみ寄り添って

川越スカラ座　この映画を見て！

小さき麦の花

中国で公開2か月後に異例のヒットとなり、「奇跡の映画」と呼ばれた珠玉の人間ドラマ。

舞台は2011年、中国西北地方の農村。それぞれ家族から厄介者扱いされていた男女が、見合い結婚させられる。貧しい農民と障がいのある妻。ぎこちなく始まった関係だったが、力を合わせて作物を育て、収穫し、食事を作り、一緒に食べるという日々の繰り返しの中で、相手を慈しむ気持ちが生まれ、小さな幸せを見つけるふたり。自然に翻弄される暮らしは厳しいが、土とともに生き、寄り添い合って暮らす夫婦の姿に心を打たれ、彼らを取り巻く時代の変化に胸が痛む。

愛という言葉は一度も登場しないが、こんなに丁寧に愛を描いた作品は見たことがないというぐらいの純朴なラブストーリー。セリフが少なく淡々とした静かな映像は一編の美しい詩のよう。彼らの行く末を見届けたあとに、英題の「Return to Dust」と邦題の「小さき麦の花」が切なくしみる。

（川越スカラ座番組編成・飯島千鶴）

「小さき麦の花」より©2022 Qizi Films Limited, Beijing J.Q. Spring Pictures Company Limited. All Rights Reserved.

小さき麦の花　2022年、中国▽監督＝リー・ルイジュン▽出演＝ウー・レンリン、ハイ・チンら

【上映期間】　6月10～23日。火・水曜定休。問い合わせは、川越スカラ座（川越市元町1の1の1　☎049・223・0733）へ。

県北

熊谷市　深谷市　秩父市　東松山市　川越市　所沢市

県西

個性豊か24作品

かえる会絵画展　31日まで熊谷

熊谷市石原の熊谷商工信用組合石原店ロビーにて31日まで「第21回かえる会絵画展」が開催されている。

「かえる会」は創立65年目の由緒あるアマチュア絵画グループ。現在、60～80代まで男女16人の会員が所属。油絵、版画、水彩画など個性豊かな全24作品を展示している。

日本画家で日本美術院同人の故大野百樹さんの弟子、日本美術院特待の久保孝久さんの作品「椿」を展示。久保さんによる会員らの合評会を開き、日々研さんを積んでいる。

第3回作品展の前で中村さん（右）と小林さん

オール加須で盛り上げを

カレー研究会、市長表敬

「加須カレー」の普及開発に努める「加須カレー研究会」（中村直樹代表）は22日、加須市役所で角田守良市長を表敬訪問し、20、21日の2日間、横須賀市の三笠公園で開かれた日本最大級のカレーイベント「よこすかカレーフェスティバル2023」での出店報告を伝えた。

同研究会は2012年、加須の農工商業が連携し、新たな加須の味を目指すことを目的に設立。「加須カレー」は、地元のトマトや舞茸をベースに、研究会考案の地元産ターメリックやチリパウダーを用いたオリジナルスパイスを使用。埼玉のブランド豚「香り豚」などが具材に入った逸品となっている。

今回初出店となった「よこすかカレーフェスティバル2023」では、2日間で約1050食を販売。角田市長は「新たなチャレンジに敬意を表するとともに、加須市のPRにも貢献していただき感謝」と激励した。

中村会長は「今後は市や商工団体と一ル加須」。埼玉

加須市の人目）を研究会の人目）ら

地域のフウリンソウ開花

6月4日まで　深谷・八基公民館で展示

深谷市下手計の渋沢栄一記念館・八基公民館で、地域ぐるみで栽培しているフウリンソウが展示され、紫や白、ピンク色の花を咲かせている。

観賞に訪れた地元の児童＝深谷市下手計、八基公民館

八基地（新井祐年から事いる。「過保護花が咲かしいとき

6月に10月にか約1年後なると成やはり欠3番花と旬ごろま

地元の校長、児年生15人てきた。し「子ど理をして

の出来栄る。

フウリ前後。6と塩崎暖ん、津秋れないで育てまし

問い合へ。

児童が世話してきた花も並び、「頑張って育ててきたので、いい花が咲きました」と観賞を呼びかけている。6月4日まで。

本社　さいたま市北区吉野町2-282-3　TEL048-795-9161　FAX048-653-9040
編集局　熊谷市宮町2-122 第一宮町ビル2F　TEL048-521-0819　FAX048-521-1540
県北支社　✉dokusya@saitama-np.co.jp
広告のご用命　TEL048-795-9932